

令和5年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	89	学校名	総和工業高等学校					課程	全日制			学校長名			柴崎 孝浩			
教頭名	村松 則善										事務（室）長名			大川 勝				
教職員数	教諭	31	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	1	実習教諭、実習講師、実習助手			8	事務職員	3	技術職員等	3	計	53
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合 計		合 計 クラス数					
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	機 械 科		38	1	54	7	39	0			131	8	5					
	電子機械科		27	4	29	1	32	2			88	7	3					
	電 気 科		12	1	19	0	20	0			51	1	3					

2 目指す学校像

1 校訓である「智和憤」と「ものづくりは人づくり」を教育活動の基盤とし、心身ともに健康で豊かな人間性を育てるとともに、確かな技術力と企業が求める「社会人基礎力」を身につけた優秀な工業技術者を育成する学校。
2 圏央道沿線の工業団地の発展に貢献できる人材を育成する地域に根差した工業高校。
3 全教職員が資質向上に努め、魅力ある教育活動を推進し、生徒・保護者・地域社会から確かな信頼を寄せられる学校。

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	○長期的目標 ・校訓である「智和憤」と「ものづくりは人づくり」を教育活動の基盤とし、心身ともに健康で豊かな人間性を育てるとともに、確かな技術力と企業が求める「社会人基礎力」を身につけた優秀な工業技術者を育成する。 ・地域に根差した工業高校を目指し、圏央道沿線の工業団地の発展に貢献できる人材を育成する。 ・全教職員が資質向上に努め、魅力ある教育活動を推進し、生徒・保護者・地域社会から確かな信頼を獲得する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	○中期的目標 ・多様な学習ニーズに応じた新たな教育課程の編成による、就職から大学進学までの進路希望の実現。 ・生徒個々の進路希望を確実に実現するために、系統的・組織的なキャリア教育を推進し、企業や大学との連携を図り、望ましい勤労観や職業観を養うとともに、進路意識の高揚を目指し社会の変化やグローバル社会に対応できる力をもつ生徒の育成。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	○短期的目標 ・基礎基本を重視して「確かな学力」、「生きて働く知識・技能」を確実に習得し、「工業技術者として必要な思考力・判断力・表現力」を身につける努力をする生徒。 ・工業の基礎的・実践的技術を習得し、各種資格取得やものづくりに真摯に取り組む生徒。 ・基本的生活習慣を確立させ、自己の進路実現を目指し、日々努力する生徒。

別紙様式 1 (高)

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	進学を目標に積極的に学習に取り組む生徒がいる一方、学習意欲がわからず基礎学力が定着しない生徒もみられる。I C T機器を活用した学習活動を取り入れ、授業の改善を図り、今後の学習指導の在り方を模索している。 専門科目に興味関心が高く、資格取得や技能習得に積極的に取り組む生徒も多い。	学習活動に興味関心をもたせるため、I C Tを活用するための教育環境の整備や生徒の実態に合わせた授業を展開するために、積極的に授業改善を行う。また、学び直しの機会を設け基礎学力の定着を図る。
生徒指導	挨拶のできる明るい生徒が多いが、規範意識が低く身だしなみが整わない生徒もみられる。交通事故件数は減少傾向にあるが、交通マナーに関しては、大きな改善が見られない。安全教育と共に交通マナーの改善を更に進めていく必要がある。	教育相談体制を充実させ、生徒一人一人にきめ細やかに接し、自己肯定感や自己有用感を高めさせることで、問題行動の未然防止・早期発見等に努める。また、自転車・原付バイク通学者の交通安全教育や定期点検の充実を図る。
進路指導	就職希望者は例年卒業生の約 70%でその内定率は 100%を維持している。大学進学者は約 15%、公共職業開発施設と専門学校進学者が約 15%である。引き続きキャリア教育の充実を図ると共に、生徒各自の進路に対応した面接や書類作成等の指導を組織的にかつ効果的に実施していく。	生徒の進路意識を向上させるため、1 年次から計画的なキャリア教育を実施する必要がある。2・3 年生に対するインターンシップや企業実習の充実により、確かな職業観の育成を目指す。模擬試験の実施等、大学進学者への指導体制を整える。
特別活動	ホームルーム活動や学校行事へ積極的に参加する生徒が以前より少なくなっている。 特色選抜により部活動加入の促進を提案しているが、全校生徒の部活動加入率は約 30%と低い。 また、生徒会を中心として、募金などのボランティア活動を行っている。	1 年次の早い段階に部活動加入を勧め加入率を上げ、生徒間の望ましい人間関係を築くことで退部者を減らす。 また、人間形成の一助となるよう、ボランティアの参加や奉仕作業の機会を促進する。生徒が特別活動全般にわたり総工版キャリア・パスポートを用い自己評価を行い、記述を基に対話的に関わり、生徒の成長を促す。
働き方改革	昨年度の全職員の月当たり超過勤務時間数の平均は 20 時間を下まわっており、定時退勤を守る職員が増えている。部活動指導を含め、業務内容や分掌の違いで業務量に偏りがみられた。職場内の超過勤務に対する意識変化があり、定時を守る職員が増えた。	教職員の業務内容の把握と業務の精選。分掌間の業務の分担と連携。教職員数の減少に伴う校内分掌の組織再編。勤怠システムの適切な運用。

別紙様式 1 (高)

5 中期的目標

- 1 生徒一人一人を大切に育てる教育を実践し、確かな知識と技術をもつ生徒を育てる。
- 2 授業改善を推進し「魅力ある授業」、「わかる授業」を展開する。基礎・基本を重視して「確かな学力」、「生きて働く知識・技能」を確実に、習得させる。「工業技術者として必要な思考力・判断力・表現力」を身につけた生徒を育てる。
- 3 工業の基礎的・実践的技術を習得させ、各種の資格取得やものづくりに真摯に取り組む生徒を育てる。
- 4 基本的生活習慣の確立を図り、礼儀正しい挨拶や身だしなみ、高い規範意識、企業が求める「社会人基礎力」を身につけた生徒を育てる。
- 5 生徒個々の進路希望を確実に実現するために、系統的・組織的なキャリア教育を推進する。企業や大学との連携を図り、望ましい勤労観・職業観を養うとともに、進路意識の高揚を目指し、社会の変化やグローバル社会に対応できる力をもつ生徒を育てる。
- 6 学校行事、特別活動や部活動、ボランティア活動等の活発化を推奨し、達成感をもたせ生徒の自己肯定感を高める。
- 7 安全で安心して学べる学習環境を確保し、生徒が生き生きとした学校生活や社会生活が送れるように安全教育や健康づくりを推進する。
- 8 地域との交流、出前授業などを通じて、地域に貢献する開かれた学校づくりを全体で取り組む。また、その取り組みを積極的に発信し生徒の自己有用感を高める。
- 9 業務の見直しや優先順位を考慮し、効率化を目標に働き方改革を推進する。

6 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
学習意欲を高める授業・実習の指導改善	①授業規律の確立と基礎的・基本的な内容を重視し、確かな学力の定着を図る。 ②観点別評価を活かし、授業・実習の指導改善を図り、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。 ③ものづくり教育を推進させ、専門的な知識や技術の習得により、資格取得につなげる。 ④ICT 機器の利活用を促進し、「協同的な学び」を推進する。 ⑤生徒による授業評価において、授業満足度の平均点を 3.0 以上とする。
道徳教育の推進と基本的生活習慣の確立	⑥規範意識の涵養を図り、基本的生活習慣を身につけさせる。 ⑦道徳教育やいじめ防止対策を推進し、問題行動等の未然防止を図る。 ⑧ルールやマナーの向上を図り交通事故防止に努める。
健康や体力を育み学校全体の活性化	⑨特別活動や部活動等を充実させ、生徒の主体性を育む。 ⑩様々な学校行事における体験的活動等を通して、生徒の協調性、協働性を育成し、学校全体の活性化を図る。
社会の変化に対応した生きる力の育成	⑪キャリア教育を推進し、勤労観・職業観の育成を図り、進路希望の実現を目指す。 ⑫企業体験学習や進学支援を充実させ、生徒の主体的な進路選択を推進する。
P T A活動の活性化と地域社会との連携	⑬P T A活動の活性化のため、保護者との連携と行事の工夫改善を推進する。 ⑭地域イベントへの協力、参加や出前授業などを展開し、本校の特色を生かした、地域社会との連携を推進する。
働き方改革の推進	⑮業務の分担の見直しと内容の精選、適正化、効率化により、働き方改革を推進する。